

「交通漫才」

(此は兵庫縣警察部保安課長木下英一氏の作として神戸新聞に掲載されて居りました、餘り面白いので……)

新婚旅行

- ヤア暫くでした、珍しい處で會うたもんやなア。
- ×僕にとつても一世一代だ、實は『新婚旅行』なんだ。
- エッ！新婚旅行、花嫁さんは！(×のポケットを上からさぐる)
- ×オイ、そんなと探したつて居らへんがな、阿呆かい、君に考へて貰ひたいのは只今大東亞戰爭の眞最中だといふことだ。
- わかつとる、それを知らんのはアメリカ人ばかりや。
- ×アメリカ人それナンデ知らんのや。
- 何しろ國民を引張つてゐるベルトがとともルーズやからな、と
ころでオバはん何處にゐるんや。
- ×オバハン？……オバはんで誰やネン？
- あんたの花嫁さんやないかいなしようもない。
- ×しつこいな、蔭介石みたいいなやせ、決戦下やいふのにいい若

い者が二人揃うて晝行燈のやうにブラ／＼と新婚旅行なんか出
來ますかいな、二人で旅行したら商賣がツヤになつてしまふ。

- エライ、流石は男兒、日本男兒だ、嬉しくなつちやつたね(虎造ばかりで)エ、有難い奴が出て來やがつた、時局の判つた奴が飛び出しやがつた、オイ／＼若いの、寢起きのいいの、神戸つ兒だつてネエ。
- ×自動車屋をやつてゐるんだ。

叔父さん

- さうだつてネ、いいなア銃後の輸送に差支へぬやう新婚旅行も奥さんと交替でイイナア、馬鹿に張り切つたね、そんな張り切つた君にポーツとした叔父さんがあるとは、ケツタイやな。
- ×それいふな。
- 構はん／＼遠慮すな、君の叔父さん東京へ行つたかと思ふと五日ばかりすると、片脚を日比谷の交叉點へ置き忘れて歸つて來た。

×そしていふことがええがナ、東京に五日居て片脚もぎとられた十日居たら、兩脚とも失敬されるから慌てて歸つて來たいうてな。

○田舎の人は盲蛇に怖じずで車道も人道も構はずに無茶苦茶をやるからな。

×田舎々々いふな、都會の人かて、随分あぶない藝當をやりをるぞ。

○見てゐてハラ／＼するがな、ガーンとひとついけば人生第一巻しかして全篇の終りやのに。

×そんなに慌てて死んだかて今年のお盆には間に合やせんがな。

○後悔先に立たず、電車に轢かれてからしまつた！これから氣をつけようと思つて眼をあいてみたら死んでゐたナンテ

×阿呆かいな。

美人薄命

○うちの隣りのお嬢さん、自轉車にやられて片脚短くなつちやつた。

×あの綺麗なお嬢さんがあゝ勿體ない。

○先日もお嫁入りの話を持ち上つた、誠に有難いことでござあます、その子はピッコをひくんでござあます。

○いゝえ、歩く時だけなんでござあますけれど。

×笑ひごとぢやない、あゝヨロ。

○オオ、ヨロ。

×しかしながら豈はからんや諸君！ 斯の如き交通事故は何れもその身の油斷から生ずるのであるんであります。

○正しい交通さへしてをれば天下何物も恐れる必要はないのでござあます。時につかぬことをお尋ねいたしますが、あなた洋行したことがありますか。

×人を馬鹿にするな、大勢の前で人に恥かかさいでええやないか。

○おこらんでもええがナ、どうせないやろ思つた。

×殿るぞ……知つてる癖にこの輝く日本の文化を忘れて、二度も三度も歐米まで少便たれに行つたのが恥かしいワイ。

○そや／＼足元を忘れるから何時までも／＼漫才せにやならんのか。

×濟んまへん、歸らして貰いまつさ。

○一寸待て、これ空中ケーブルカーや途中下車されたらわしやかなはんよ。

×僕も日本人です、行くところまで行きます、頑張ります、何が何でもやり抜きますヨお。

○みんな氣を揃へてやつてゐるもんナア。

×お先の方から御順に中の方へお詰め合せ願ひます。

○眞ン中に別嬪さんがお揃ひで御座います。

御親切に

×次は終點で、ございます。

○お客さんもよくなりました、萬事隣組精神で……

×アノお隣のお方……さいぜんからあなたのおみ足が私の足へお乗り遊ばしていらつしやいます、人手の足りない時ですから無理も申されませんが、おついでのときお降ろし下さいませう。

○ヤア失敬……何分忙しいのでツイ失禮いたしてをります、終點で降りようと思ひますから、いづれその節とくと考慮して善處いたしませう。

×ありがたう……近ごろは運轉手さんも親切になりましたねエ。

○(二人とも自動車に乗つた態)アノ——運轉手さん有難うございました。ここが宅の前……あ、降ろして下さい。

×奥さん、それは損です。只今メーターが一圓になつたばかりですからもう五六百米は同じ値段です……てな具合でネ、免に角みんな職域奉公、交通報國で張り切つてます。

○ところがネえ！ 僕は先日ぞんざいな車掌さんに會つた。

×「ヘーいまだき珍らしい……」

○別嬪さんをつかまへてネ『阿呆ッ今頃ナンデノコノく出歩クノ

ヤ、早ク歸ツテおむつデモ洗ヘッ』てネ。

×(○の襟首をとる)何をッ……何をッ我慢ならん、出せッ……その車掌をここへ出せッ。

○オイ〜君は女のことになるとすぐそれだ。アワテルナ、その別嬪さんはその車掌さんの奥さんやツた。

×ウエヘッ(表情よろしくあつて)しかし大きな聲ではいへんが大勢の市民の中にはまだ交通公德も車内隣組精神も行きわたらんのがあるなア。

○切符が無いねンやろ、……猿又のゴム紐みたいに伸びきつてるのがあるかと思ふと、他人に迷惑をかけることを考へてららしいのもある。

蜻蛉つり

×お父さん僕今日學校から電車をおつかけて来て六錢徳しちやつた。

○そりやいいことをした、明日から自動車おつかけて八十錢儲けなさい。

×親子共犯で交通妨害をやりをる。

○この餓鬼め、また座敷で遊んでゐるやがる、臺所へでも行け。

×この子は臺所でばかり遊んでゐる。邪魔になつてかなはん、外で遊びなさい。

○道で遊んでたら巡査さんに叱られた：アーンアーン。
×道でトンボ捕つてたら自動車に脚をとられてしまったアーン：アーン。

○今の世の中では他人に御迷惑をかけるのが一番屑やなア。
×まして子供は國の寶や（○の肩に手をかけ抛る形）むやみに道路へ抛り出したらあきまへん。

○ドエライまた子供を可愛がる人もある……おいタクシー……新開地までナンボヤ。

×一圓二十錢位になります。

○子供を連れとるがこれはナンボヤ。

×お子さんはたいです。

○さうか……ちや子供だけ乗せて呉れ、僕は電車で行く。

×その心臓……博物館行きや。

○まだ威勢のいゝのがある。

×ベラ棒め、江戸ッ子でエ……

大 事 な 命

○江戸ッ子でも龜の子でも飛び降りはやして下さい。

×何をッ……始めて飛び降りるんぢやねエヤ。

○ソラ轉んだッ……

×慌てるない、始めてひつくり返るんぢやねエヤ。

○アッ！ たりとう驟かれてしまった。

×やかましいヤイ始めて死ぬんぢやねエヤ。

○口先ばかりは達者でも（唄ふ）『電車に驟かれたヒキガヘル、トユトット』

×どうせ死ぬなら護國の華と散りたいもんなやア（唄ふ）『泣くな騒ぐな必ず歸る桐の小箱に錦着て、逢ひに来てくれ九段坂』

○兄は南山弟は旅順、共に香ばし八木の花、死して護國の華となる』

×『戦友見てくれ坊やの手紙、尋常一年アイウエオ、君に忠義と書いてある』

○一億一心たゞみ國のためにみ國のために。

×お國のために大事な身體です。あたらしい人間一匹、電車、自動車にもみくちやにされてないやうに注意のうへにもご注意になつて、各々その立場々々で戦城ご奉公に邁進して戴きたいものでございます。

○毎度御乗車下さいまして有難うございます、家庭行きのお方は御乗替へでございます。

○×ハイ左様なら……（をばり）